

第16回 女と男の一行詩 入賞作品発表

「女と男の一行詩」とは、形式のない川柳のようなものです。「男性の家庭や地域への参画」「女性活躍」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」など男女共同参画をテーマに家庭や地域、学校や職場で感じる思いを募集しました。

「女と男の一行詩」にご応募をいただきありがとうございました。今回は397名から828作品のご応募をいただき、一般投票と選考委員による審査の結果、入賞6作品が決定しました。

最優秀賞

子どもができたらやめちゃうの？
そんな社会をやめちゃおう

氏 天姫さん（短大生）

●入賞コメント●

上司に妊娠報告をしたら、お祝いの言葉ではなく、退社届を渡されたという先輩女性がいたと話を聞き、この詩を思いつきました。

優秀賞

私の手 生かせる社会

目指したい

沼口 瑚紅さん（高校生）

帰宅して 疲れて眠る
母のよこ 台所に立つ 父の姿

浄土 駿介さん（高校生）

入選

共白髪 支え合う心が 夫婦円満

戸島 則子さん（一般）

「ありがとう」 世の中に

信太 優希さん（高校生）

自分から 変えていこうと
思わなきゃ 変わるはずない
これからも

高橋 美咲さん（高校生）



【講評】

女性活躍推進法が施行されておよそ2年が経過した今年度の一行詩は、応募者の世代の広がりを感じさせる選考結果となりました。

最優秀賞に選ばれた作品は、職場における子育てや育休のあり方をテーマにしたものであり、制度はもとよりそれを運用する職場の理解がいかにか大切であるかを考えさせてくれる作品でした。

将来への希望と期待を込めた優秀賞と入選の作品は、ともに若い世代が性差による不利益を受けないような社会をつくる責任が現役世代にあることを痛感させるものでした。特に優秀賞作品の「私の手」という表現は、選考委員の間で高い評価を受けました。

もう1つの優秀賞と入選では、家庭における男女共同参画を描いた作品が各1作品選ばれました。両作品ともに両親をテーマにしている点が共通しており、その情景や家族のつながりがとてもよく伝わってくる作品でした。また、今年も感謝をテーマにした作品が入賞したことは、本市の一行詩らしい嬉しい選考結果となりました。

「女と男の一行詩」選考委員長 岡 庭 義 行

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目 帯広市役所 男女共同参画推進課

電話：0155-65-4134 F A X：0155-23-0171

電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成30年3月発行

●発行：帯広市

●企画・編集：帯広市男女共同参画推進員

伊藤 容子・遠藤 妙子

川尻れえ子・田沼 誠子

沼田 秀実